

○計画期間：平成24年12月～平成29年3月（4年4月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成25年度終了時点（平成26年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成24年12月以降、認定基本計画に基づき、「歩いて健康 活気ある居心地良いまち」といった方針のもとに各事業を実施している。

上山型温泉クアオルト構想による事業では、国内初の取り組みである気候性地形療法によるウォーキングなど温泉保養地での滞在時間を長くするための各種プランを実施中である。上山城の拠点機能の強化や歴史的建造物などの整備により観光資源の魅力を磨き上げるとともに、それらを繋いで回遊を促す回遊ルートの整備を進めており、回遊ルートの美装化の進展や上山城周辺の既設トイレのユニバーサルデザイン改修完了によって、気軽に散策できる魅力的な歩行空間が完成しつつある。平成25年11月からは、「まちなかウォーキング」を実施し、12回の開催で198人の参加者が得られた。回遊ルートの美装化の更なる進展等により、今後、「まちなかウォーキング」への参加者の増加やまち中の市民及び観光客の回遊性の促進が期待される。

また、中心商店街の賑わい創出のための事業として、地域商店街活性化事業（にぎわい補助金）を活用した上十日町商店会による「いろは市」が開催され、6,000人の来場者実績となり、前年実績（3,800人）を大きく上回ったほか、駅前商店会の黄金市、石崎商店会のかっぱ市、二日町ショッピングセンター協同組合の朝市など各商店会による商業祭の開催、加えて飲食店組合の設立及びスタンプラリー形式によるイベント開催など賑わい創出を図っている。現在の効果は、イベント開催時の一時的なものであり、継続的に賑わいを維持するまでには至っていないが、定期的開催することで、出店者にとっては新たな顧客が来店するきっかけとなり、さらにはリピーター化による中心商店街への集客効果と賑わいづくりが図られることから、今後も継続的に事業を実施していく。

2. 平成25年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

目標数値の1つである「歩行者通行量」については、目標値を大きく下回る状況であるが、回遊ルートの美装化などにより改善の兆しが表れており、今後、まちなかウォーキングの開催増などにより、市民及び観光客の回遊性の促進が期待される。

また、商店会等のイベント開催により、継続的に賑わいを維持するまでには至らないものの集客効果が見られることから、中心市街地賑わい創出支援事業などのソフト事業を継続しさらに充実していくことや認定基本計画に基づく上山城拠点機能強化事業・特別展開催事業、回遊ルートの美装化、高齢者サロン社会実験などを継続するほか、目標達成に寄与する主要事業としている温泉クアオルト拠点施設整備事業の機能充実に向けた検討、平成25年に基本計画を変更し追加したコミュニティセンター整備事業などの対策を講じる必要がある。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
市民及び観光客の 回遊促進・商店街の 利用促進による 賑わい創出	歩行者通行量(休日)	2,398 人 (H21)	2,566 人 (H28)	1,639 人 (H25)		②
市民及び観光客の 居場所づくり・市民 活動の拡大による 賑わい創出	まち中の交流施設 利用者数	37,419 人 (H21)	60,000 人 (H28)	51,501 人 (H25)		①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

①「歩行者通行量」について

平成 21 年の基準値 2,398 人に対し、基本計画が認定された平成 24 年の実績値が 1,610 人となり、基本計画における推計値を大きく下回る状況となった。認定基本計画に基づく、中心市街地賑わい創出支援事業、上山城拠点機能強化事業・特別展開催事業、回遊ルート的美装化、高齢者サロン社会実験の実施などにより平成 25 年の実測値は 1,639 人と増加に転じている。

中心市街地賑わい創出支援事業等の拡大や認定基本計画において目標達成に寄与する主要事業としている温泉クアオルト拠点施設整備事業の機能強化、平成 25 年に基本計画を変更し追加したコミュニティセンター整備事業などの対策を講じ、目標達成にむけ最大限努力していく。

②「まち中の交流施設利用者数」について

平成 25 年の最新値が 51,501 人となり、目標値 60,000 人に近づいている。高齢者サロン社会実験の実施等により増加しており、上山小学校（屋内運動場、多目的ホール）改築整備、温泉クアオルト拠点施設整備は今後、実施を予定している。

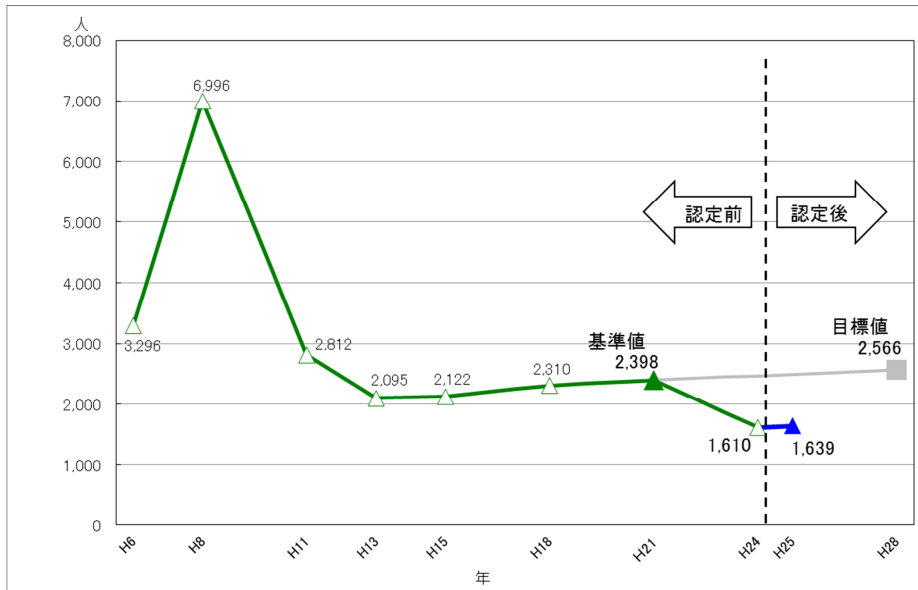
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者通行量（休日）」※目標設定の考え方基本計画 P61～P72 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H21	2,398 (基準年値)
H24	1,610
H25	1,639
H26	
H27	
H28	2,566 (目標値)

※調査方法：歩行者、毎年9月の第1週日曜日に7地点において8～19時
で計測

※調査月：平成25年9月

※調査主体：上山市・上山市商工会

※調査対象：中心市街地内7地点（旧山交待所、矢来三丁目、石崎A1前、カミン前、やぐら前
旧トキワ館前、旧ミヨシヤ前）における歩行者の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 温泉クアオルト拠点施設整備事業（上山市）

事業完了時期	【未】平成27年度
事業概要	観光客や市民の健康ウォーキングやまちなかウォーキングの起点となるほか、観光案内機能、ギャラリーなどを併設して複合的な機能を備えて回遊型観光の拠点となる温泉クアオルト拠点施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成27年度に事業実施を予定している。

②. 上山型温泉クアオルト構想事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	市民の健康増進と交流人口の拡大を目的に、平地の里山・温泉地区（標高180m）と標高1,000mの地区の標高差を活かし、両地区を連携させ、気候性地形療法による健康ウォーキングを実施する。さらに、市街地の美装化した道路を使い、まち中でのウォーキングも実施する。 また、入浴を併用した健康づくりの連泊ツアーを実施し、健康づくりのための里山や準高所のウォーキングと市街地の歴史小

	<p>路（フットパス）を活用したまち歩きや商店での様々な体験を組み合わせる事により多様な魅力づくりを行い回遊型観光の普及拡大に努める。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>「上山型温泉クアオルト構想」を策定し、構想に基づき、ウォーキングによる医科学的効果検証、毎日ウォーキングなどを実施している。</p> <p>平成 25 年 11 月からは、「まちなかウォーキング」を実施し、12 回の開催で 198 人の参加者が得られた。平成 26 年度からは年間を通した「まちなかウォーキング」が実施されることから、参加者の増加が期待される。</p>
③. 上山城拠点機能強化事業・特別展開催事業（上山市）	
事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	<p>歴史資料館としての機能を強化するとともに、回遊型観光の拠点として、スクリーンなどを設置し、集客のためのイベントの開催に努めるほか、情報発信基地として、市民からも観光客からも親しまれる施設を目指す。さらに、上山城を拠点とした回遊の起点となる広場の整備を行う。</p> <p>また、上山城での歴史と文化等をテーマにした企画展示会を開催する。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>上山城内 1 階フロアのバリアフリー化、上山城展示室の改装、観光用ソフトの作成と編集、大型パネルの設置、上山城広場舗装整備などが完了している。</p> <p>平成 25 年度は、企画展示会を 5 回開催し、入館者数 48,142 人の実績であった。</p>
④. 山城屋保存・活用事業（株葉山館）	
事業完了時期	【未】平成 26 年度
事業概要	<p>山城屋旅館は、地元出身の歌人齋藤茂吉の実弟が経営していた旅館で、茂吉も頻繁に訪れていた。木造和風の建物は清楚な美しさが漂い、大正時代に建てられた旧館と蔵は国の登録文化財にも指定されているが、平成 22 年 6 月から閉館されて現在に至っている。</p> <p>この歴史的建造物を市で取り組んでいる温泉クアオルト事業を実践するための宿泊施設・休憩施設として再整備する。長期滞在にも適合する宿泊施設、まち歩きやウォーキングの疲れを癒す温泉入浴施設、地元の食材などにこだわった健康食メニューを提供するレストランに加え、更衣室、荷物預かり施設、シューズ・ウェア等のレンタル等まちなかウォーキングの基地としての機能も備える。</p>
事業効果及び進捗状況	平成 26 年度に事業実施を予定している。

⑤. 長屋門長屋整備事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	NPO 上山まちづくり塾と大学生がコラボレーションしてセルフビルドで改装した空き店舗長屋門長屋を、市民や観光客が立ち寄るギャラリーと体験工房として活用し賑わいを創出する。
事業効果及び進捗状況	長屋門長屋を、市民や観光客が立ち寄るギャラリーと体験工房として活用し、平成 25 年度は、開館日 191 日、来訪者数 3,092 人の実績であった。

⑥. 道路の美装化事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 27 年度
事業概要	蔵王が眺望できる月岡公園・上山城を中心に、武家屋敷通りの美装化により結ばれた湯町、新湯の温泉街と、歴史的な街並みが残る十日町商店街を結んだ散策路の美装化等によって、気軽に散策できる魅力的な歩行空間を整備する。
事業効果及び進捗状況	道路の美装化事業の進捗状況は 50%程度であり、平成 27 年度の事業完了に向け、事業を実施している。 美装化の完了した道路については、まち歩きする市民及び観光客が増加したとの声も聞かれ、回遊性の促進効果が期待される。

⑦. 図書館・店舗連携事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	ショッピングプラザカミン内に立地する市立図書館とカミン内店舗及びカミン外の各商店が連携し、図書館利用者が各商店を利用した場合の割引制度を推進し、商店の利用者増加につながる事業を推進する。
事業効果及び進捗状況	カミン内の市立図書館とカミン内 6 店舗が連携し、図書館利用者割引制度を実施している。 連携店舗が拡大していないことから割引制度利用者数も伸び悩んでおり、今後、カミン内他店舗、カミン周辺商店街への参加の呼びかけなどを実施し、連携店舗の拡大を図る必要がある。

⑧. 一店逸品開発推進及び特産品開発事業（商工会）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	優れた農産物、物産品、製造品などに磨きをかけ、研究会活動を通じて個店の商品の見直しと開発を進め、かみのやまブランドの形成を継続的な取組みとして実施し、個店及び商店街の魅力アップや周辺への波及効果に努める。
事業効果及び進捗状況	各商店会の自発的活動として、個店の一押しの商品などを紹介する店舗紹介及びメニュー冊子などの作成が行われている。 店舗紹介及びメニュー冊子の配布は、今後、予定されており、このような活動をとおして集客力の向上を図っている。

⑨. 食の駅設置事業（めでた♪めでた花のやまがた観光圏推進協議会）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	地元食材、地場産農産物、伝統野菜を使用したご当地メニューや無くなりつつある郷土食、村山地域の伝統食を提供する店を「食の駅」に認定し、新たな魅力を発信し、滞在の促進とリピーターの確保を図る。
事業効果及び進捗状況	「食の駅」として「食」に限定した魅力発信から、多分野にわたって発信する「はしご湯治」等とした事業を実施している。本市の魅力である「湯治（温泉）」、「グルメ」の分野で地元旅館・商店に呼びかけ、現在、14 店舗が登録している。顧客としてのリピート率の向上と観光客の回遊性の向上を図るため、広域マップ及びスタンプラリーなどを実施した。

⑩. カミン集客力強化事業（上山二日町ショッピングセンター協同組合）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	上山市の特産品を集約した物産・産直機能を強化し、地元消費及び観光客の利用拡大を図り集客力を高める。また、観光や市民、各地区などが開催するイベント情報などの発信とインフォメーション機能を強化する。
事業効果及び進捗状況	カミン 1 階において、上山の特産品・地場産品の展示、広報宣伝事業（展示事業所数 21、販売事業所数 13）を実施した。また、朝市の開催や ZAO たいらぐら直売所による農産物の直売など集客力強化を図ったが、大型スーパー開店などの影響によりカミン全体の売上は前年対比 15%減となった。今後は、朝市や農産物直売の開催日数の増加などにより、集客力の向上を図る必要がある。

⑪. 中心市街地賑わい創出支援事業（各商店会、観光物産協会、商工会、各種実行委員会等）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	商工会や商店街が開催する定期市、商業祭、100 円商店街などの定着を図り、賑わいの創出に努める。
事業効果及び進捗状況	国の地域商店街活性化事業（にぎわい補助金）を活用した上十日町商店会の「いろは市」が開催され、来場者数が 6,000 人の実績となり、前年実績（3,800 人）を大きく上回ったほか、駅前商店会の黄金市、石崎商店会のかっぱ市など各商店会による商業祭の開催や飲食店組合の設立及びスタンプラリー形式によるイベント開催など賑わい創出を図っている。

⑫. 高齢者サロン設置社会実験・設置事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 27 年度
事業概要	空き店舗等を改修して高齢者が気軽に立ち寄り、趣味の活動や交流ができる場を整備することにより、介護予防、核家族化や高齢化の進展に対応した支え合いのまちづくりを推進する。

事業効果及び進捗状況	<p>市内の「ひとり暮らし高齢者等実態把握調査」を踏まえ、高齢者の孤立予防、交流促進のため、カミンの空き店舗スペースに常設型高齢者サロンを社会実験事業として開所している。</p> <p>平成 25 年度は、開所日数 359 日、利用者数 16,969 人の実績であった。</p> <p>平成 23 年度～27 年度は、社会実験事業として開所し、平成 27 年度末に社会実験事業の総括を踏まえ、設置する。</p>
------------	---

⑬. まちづくりセンター充実事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	<p>市民によるまちづくり活動をサポートし、観光、商業分野との連携など、共通の目標に向けて調整を行うコーディネーター機能の強化を図る。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>市民活動推進員 2 名を配置し、コーディネーター機能の強化を図り、市民によるまちづくり活動をサポートしている。</p> <p>平成 25 年度は、利用者数 4,202 人であった。</p>

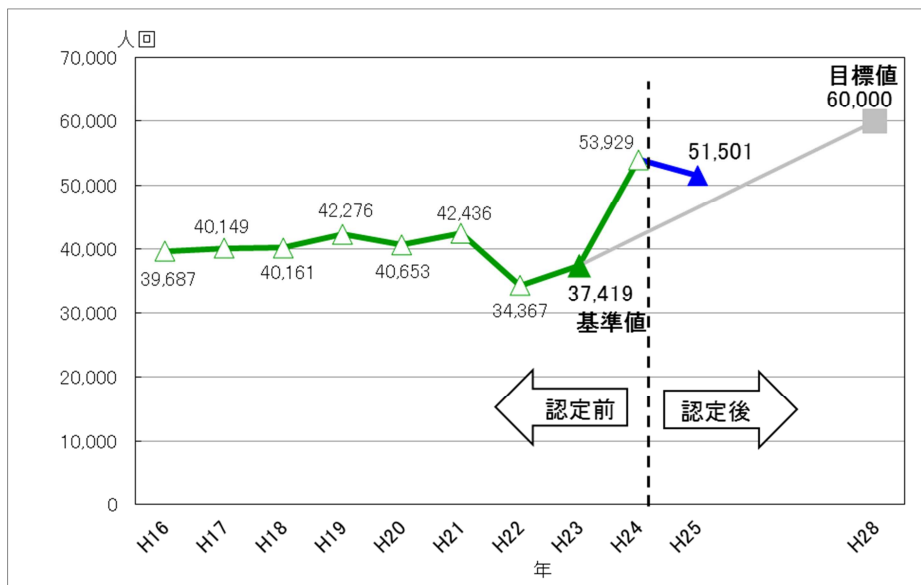
●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 21 年の基準値 2,398 人に対し、基本計画が認定された平成 24 年の実績値が 1,610 人となり、基本計画における推計値を大きく下回る状況となった。認定基本計画に基づく、中心市街地賑わい創出支援事業、上山城拠点機能強化事業・特別展開催事業、回遊ルートの美装化、高齢者サロン社会実験の実施などにより平成 25 年の実測値は 1,639 人と増加に転じている。

中心市街地賑わい創出支援事業等の拡大や認定基本計画において目標達成に寄与する主要事業としている温泉クアオルト拠点施設整備事業の機能強化、平成 25 年に基本計画を変更し追加したコミュニティセンター整備事業などの対策を講じ、目標達成にむけ最大限努力していく。

「まち中の交流施設年間利用者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P73～P77 参照

●調査結果の推移



年	(人回)
H23	37,419 (基準年値)
H24	53,929
H25	51,501
H26	
H27	
H28	60,000 (目標値)

※調査方法：利用者数、毎年4月～3月までの実績値を集計。

※調査月：平成26年3月

※調査主体：上山市

※調査対象：まち中の交流施設7施設（働く婦人の家、アビヤント・K、上山小学校屋内運動場、まちづくりセンター、上山小学校多目的ホール、温泉クアオルト拠点施設、高齢者サロン）における年間利用者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高齢者等サロン整備事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成27年度
事業概要	空き店舗等を改修して高齢者が気軽に立ち寄り、趣味の活動や交流ができる場を整備することにより、介護予防、核家族化や高齢化の進展に対応した支え合いのまちづくりを推進する。
事業効果及び進捗状況	市内の「ひとり暮らし高齢者等実態把握調査」を踏まえ、高齢者の孤立予防、交流促進のため、カミンの空き店舗スペースに常設型高齢者サロンを社会実験事業として開所している。 平成25年度は、開所日数359日、利用者数16,969人であった。 平成23年度～27年度は、社会実験事業として開所し、平成27年度末に社会実験事業の総括を踏まえ、設置する。

②. 上山小学校改築整備事業（屋内運動場・多目的ホール）（上山市）

事業完了時期	【未】平成27年度
事業概要	上山小学校は耐震化のため、建て替える必要があり、その整備が急がれている。この場所は上山城、武家屋敷、湯町に囲まれた位置にあるため、周辺の景観にマッチした外観となるよう配慮をする。また、周辺を散策する人も多く、学校の一部を開放エリアとし、イベントや団体の活動として使用できる多目的ホ

	ールを有する屋内運動場を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度に事業実施を予定している。

③. 温泉クアオルト拠点施設整備事業（上山市）

事業完了時期	【未】平成 27 年度
事業概要	観光客や市民の健康ウォーキングやまちなかウォーキングの起点となるほか、観光案内機能、ギャラリーなどを併設して複合的な機能を備えて回遊型観光の拠点となる温泉クアオルト拠点施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度に事業実施を予定している。

④. まちづくりセンター充実事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	市民によるまちづくり活動をサポートし、観光、商業分野との連携など、共通の目標に向けて調整を行うコーディネーター機能の強化を図る。
事業効果及び進捗状況	市民活動推進員 2 名を配置し、コーディネーター機能の強化を図り、市民によるまちづくり活動をサポートしている。 平成 25 年度は、利用者数 4, 202 人であった。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 23 年の基準値 37, 419 人に対し、平成 24 年の実績値は 53, 929 人、平成 25 年の最新値は 51, 501 人となっている。平成 24 年は高齢者サロン社会実験の実施により増加したものの、平成 25 年は働く婦人の家の利用者の高齢化による活動サークル数の減少、上山小学校改築整備工事の影響による屋内運動場の利用者の減少、高齢者サロン社会実験の事業内容のマンネリ化等による減少によって、前年に比べ 2, 428 人減少している。

平成 25 年は前年対比で減少したものの、高齢者サロン社会実験の事業内容の見直し、目標達成に寄与する主要事業である上山小学校（屋内運動場、多目的ホール）改築整備、温泉クアオルト拠点施設整備の実施などにより、目標値である 60, 000 人の達成は可能と見込んでいる。